

姫路西高生、大学の学び体験

姫路西高校（姫路市北八代2）の1年生が、県立大姫路工学キャンパス（同市書写）へインターンシップに出向き、普段の授業よりも高度な実験に取り組んだ。「バランスロボットの制御」「重力加速度の測定」などの研究テーマごとに、講義と実験を通して科学的な考察を学んだ。

同高は文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定を受け、理数系科目に重点を置いた課題研究や探究学習に取り組んでいる。インターンシップには国際理学科の約40人が参加。研究テーマ別に4人ずつのグループに分かれ、同大の教授らから直接指導を受けた。

県立大でインターンシップ 教授らが講義、実験を指導



電子顕微鏡の遠隔画像を観察する生徒ら＝県立大姫路工学キャンパス

「淡路島の海岸砂を利用した砂型鑄造による金属メダルの作製」のクラスでは、同大の永瀬丈嗣教授（49）が

「淡路島の海岸砂を利用した砂型鑄造による金属メダルの作製」のクラスでは、同大の永瀬丈嗣教授（49）が

料のものづくりの基本」と解説した。生徒らは淡路島の海岸の砂などで鑄型を作り、スズや亜鉛合金のメダルを作製した。

その後、合金の切断面を電子顕微鏡で映した画像を遠隔システムで観察。生徒らは、目には見えない倍率1万倍のミクロの世界で広がる幾何学的な模様を光景に驚いていた。

岩崎健吾さん（15）は「ものづくりに興味があったので、メダル作りは楽しかった。電子顕微鏡や情報通信の話は難しかったけれど、いろんな分野の研究がなってきた」と満足そうだった。

（後藤亮平）